



中学部だより



学校 HP



二次元コード

<作業学習における基礎的態度の育成>

1年生では、「作業入門」の一環として、メモ帳の製作活動を通じて、作業における基本的な態度や技能の習得を目指しています。授業では、受注から製作、納品に至る一連の流れを実践的に体験することで、働くことの意義や責任感を育んでいます。活動を通じて、生徒は以下の点について理解を深めています。

- ・言葉遣いの丁寧さや身だしなみの整え方
- ・作業工程における手順の遵守と安全への配慮
- ・目標個数の達成による達成感と、納品先からの「ありがとう」の言葉による自己肯定感の向上

1年間でたくさんのことを学んで職業観を身につけていきます。



<農園芸活動を通じた主体性と社会性の育成>

2年生では、「やまぶきガーデン花いっぱい活動」の単元において、農園芸作業を中心とした実践的な学習に取り組んでいます。生徒たちは、種まきや花がら摘みといった日々の作業を繰り返し行う中で、作業の手順や自らの役割を理解し、見通しをもって主体的に行動する力を養っています。

また、摘み取った花を校内の各所へ届ける活動や、YS さんとの協働作業など、校内のさまざまな人々との交流の機会を設けることで、対人関係のスキルや社会性の向上も図っています。

これらの活動を通じて、生徒一人ひとりが「自分の役割を果たすことの喜び」や「人とのつながりの大切さ」を実感しながら、働くことへの意欲と責任感を高めています。



<木工を通じた技術習得と製品意識の育成>

3年生では、「きって・みがいて」の単元において、作業学習として初めての木工に取り組んでいます。生徒たちは、のこぎりや焼きごてといった本格的な工具を使用しながら、木材の切断や加工、仕上げといった一連の工程を体験しています。

作業では、定規を用いて寸法を正確に測り、決められた長さに揃えるといった「規格」への意識を高めるとともに、完成品としての「品質」や「見た目」にも配慮した製作活動を行っています。

こうした経験を通じて、生徒は道具の扱い方や安全への配慮といった技術的な側面だけでなく、製品としての完成度を意識する姿勢を身につけ、今後の高等部での作業学習へとつながる基礎を築いています。



社会人基礎力：『中学部編』

やってみる力



- ・自分らしさ
- ・発信力
- ・実践力

考え抜く力



- ・自己を知る力
- ・計画性
- ・アレンジ力

チームワーク



- ・相手を尊重する力
- ・聞く力
- ・合わせる力
- ・自分コントロール力

中学部では、社会人基礎力を基本にマナーや身だしなみ、言葉遣い等を身につけ、学校の中や校外でも学んだことを発揮ように普段の生活から心がけるように指導しています。また、友達や先生との関わりの中で自分自身の得意不得意を知ることや自身の感情をコントロールする方法も学習の中で身につけます。